

二〇二〇年度 田園調布学園大学

全学部全学科専攻 共通

国語 入学試験問題

一般入試A日程

| 受験番号 | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

(注意)

- 一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。
- 二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄にかならず記入してください。
- 三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。
- 四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてかまいません。
- 五、試験時間は六〇分です。

| 氏名 |
|----|
| |

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

心理学の世界では、残念ながら「ウソ」の研究というのはありません。正確には「ディセプション」(ごまかし、欺まん、*deception*) についての研究になるのですが、それを踏まえて私なりにウソを分類すると、大きくは四つに分けられると思います。もちろん、ここでは反倫理的なウソ、犯罪的なウソは対象外とします。

ひとつは「利己的なウソ」。自分が得をするためにつくウソですね。一番嫌われるのがこれです。自分の利益のため、得をするためにつくものですから。

次が「利他的なウソ」。相手のためにつくウソです。演歌の世界によくあるでしょう？ あなたのためを思って身を引くわというのが(笑い) 注。好きなのに、愛する人のために「嫌い」と言われていく。これなどは「利他的なウソ」ですね。

子どもや若い人たちに伸びてほしい、がんばってほしいと思つてつくウソも、これに入ると思えます。たとえば **A**。これも突き詰めれば、子どものためを思ってウソをついていることになります。

それから「とっさにつくウソ」。これは a イト的な ものではありません。「利己的ウソ」と「利他的ウソ」は、かなり計算が入ったイト的なものですが、これは違う。何かを言われてとっさについでしまうもので、自分を守るためのその場逃れのウソ、予想外のウソと言えればいいでしょうか。

たとえば出された食事を「まずい」と思つても、とっさに「おいしいです」と言つてしまう。年齢を聞かれて、とっさに①サバをよんで答えてしまうなんていうのも、そうかもしれません(笑い)。

居留守を使う、**B**、相手によってはわざと電話に出ないというのも「とっさにつくウソ」と言えるでしょう。

虫が保身のために b ギタイ をする、保護色を持つというのも、考えてみればこれですね。虫がつく「とっさのウソ」というわけです。

最後に「結果としてのウソ」というものがあります。ウソをつくつもりは全くなかったし、本当のことを言ったのだけれど、結果的にウソをつくことになってしまったというものです。

よくあるのは、**C** ケースですね。約束したときはウソをつくつもりはなかったが、結果的に子どもにウソをつく形となつてしまうわけです。

ウソは世界的に「よくないもの」とされているようです。エープリルフールなどの特別な日を除けば、ウソについてもいいという文化は見当たりませんし、イソップ童話にも②「オオカミ少年」の話があります。また、日本に限らず、外国にもウソを c 戒める ことわざが数多く存在します。

これは推測ですが、これだけウソを戒めていることを考えると、人間は昔からウソをついてきたのでしょうか。もともとは動物のギタイと同じように、自分の身を守るためにウソをついていた。そのうち利害関係が生じるようになって、相手をだまして自分が得をするため、実害を与えるウソが出てきたのかもしれない。

最初はバラバラに住んでいた人間たちも、徐々に群れを作つて集団生活をするようになり、やがて経済活動が生まれる。そこから、実害のあるウソが出てくるようになったとも考えられます。

お金を貯めたいとか、おいしいものが食べたいという欲求を社会的欲求と言いますが、それが必要なければウソをつく必要もないわけです。社会的欲求というものが出てきたことがおそらく「金持ちのほうが偉い」「価値がある」といった価値観を生み、ウソをついてでもお金を儲けよう、得しようという心理が出てきたのではないのでしょうか。言うなれば、ごく自然発生的に、社会構造の変化とともにウソというものが出てきたと思うのです。

そうしたウソを野放しにしておくことが社会が大混乱しますから、法的な縛りをもうけ、③「ウソをついてはいけない」ということになったのではないか。倫理観や道徳観は作られたものですから、社会生活が発展してくる中で、守るべき事柄のひとつとしてウソの戒めというものが出てきたのではないかという気がします。

学者の中には、「初めてウソをついたとき、子どもは親の縛りから解放される」と言っている人もいます。完全に一体化しているときは、「私とあなた」は一緒ですから心理的なD感はありません。つまり子どもがウソをつけるようになったというのは、自分と相手（親）との間に距離を置くことができるようになったということなのです。

子どもが何歳で初めてウソをつくのかについてははっきりしたデータは存在しませんが、早くは二歳ぐらいで、おねしょを「汗をかいた」と言ってウソをついた例があります。幼稚園ぐらいになると友だちの道具を取っておいて、「自分のものだ」と言い張るようになります。

ただし、この年代の子が「ウソはいけない」と思うのは、親から「いけない」と言われているからそう思っているだけで、「なぜいけないか」ということを本当に理解しているわけではありません。

心理的Eの側面から言うと、相対的道徳観ができあがるのは十歳前後と言われています。「自分がこういうことをすると相手は困るだろうな」とか、「友だちは嫌がるだろうな」と思うようになるのが相対的道徳観です。これができる、「ウソをついてはいけない、ウソをつく」と相手が困るから」ということがわかるとされています。

十歳というのは、多くはプライバシーのF性を感じるようになる年齢なんです。アメリカの研究によると、小さな子どもは突然部屋をあけても文句を言わない。それが十歳ぐらいになると違ってくる。ノックをせずに他者が部屋へ入ると怒ったり、「いきなり開けないで」と文句を言ったりするようになる。

おそらく、自分と他人という自他の意識や自我ができてくるのがこの年代なのでしょう。そのため、なぜウソがいけないのか、ウソをつく」と相手がどう困るかがきちんと理解できるようになり、ウソをつくことに罪の意識や良心のd呵責を感じるようになると考えられます。

ただし、自分の身を危険から守るときには、ウソをつかないといけない場合もあります。④難しいのですが、子どもたちにはそのことも伝えていく必要があるのではないかと思うのです。たとえば友だちに振り回されてしまう子がいますが、こういう子どもは非常にまじめでウソのつけない子が多いんですね。ですから悪い友だちから誘われても、適当にウソをついて断るといことができない。それで振り回されてしまう。

ですから「ウソはいけない」ということと同時に、「ウソで危険から身を守ることも、ときには必要である」と教えていくことも子どもには必要かもしれません。

ウソをついた人の心理として面白いのは、ウソをついた人はそのウソをばらしたくなるという

ものです。とくに⑤他愛のないウソだったりすると、それが成功したときには「うまくやった」「してやったり」的な喜びを感じたりする。それを人にばらすと喜びも二倍になる(笑い)。

それはともかく、子どもは自分のウソを親に見破ってほしくないのではないだろうか。ウソをついていることがわかるといのは、それだけ相手のことに関心を持っている、深く考えているということですから……。

親が子どもの行動や様子を細かく見ているからこそ、すぐにウソを見破ることができる。その背景にあるのは愛情の深さです。ですから子どものウソがすぐわかるといのは、それだけ親子関係がeキンミツであることの表れとも言えるのです。

夫婦もそうです。相手のウソがわかるといのは愛情が深い証になる。つまり、一種の愛情のバロメータにもなると、言っていいかもかもしれませんね(笑い)。

男と女で言うと、世間的には男性のほうがウソをつくのは下手、女性のほうがウソがばれにくいと言われています。

しかしビデオを使った実験によると、ウソがばれやすいのはじつは女性のほうという結果が出ているのです。

男性・女性両方に、ある段階にきたらウソをつくようをお願いし、その様子を録画して数人の専門家が分析していくと、女性のほうがウソをつけているサインを多く出しているのです。たとえば視線をやたらと合わせるようになったり、微笑が多くなったりする。そうしたサインは女性のほうが多かったそうです。

では、なぜ女性のウソはばれにくいと言われているのか？ これは男性の解読能力——専門用語ではディコーディング(符号解読能力)と言いますが、これが低いからです。

心の中の状態を視線や微笑に置き換えることを符号化と言います。後ろめたいことがあって、いつもより視線を合わせなくなるといのは符号を発しているということ。ウソがわかるというのは、この符号がわかるということで、言い換えれば符号化が解読できない人は、ウソがわからないということになります。

ウソに気づかない場合というのは二種類あって、ひとつは相手が普段からよく知っている人ではなかった場合です。もうひとつは符号解読能力が低い場合。気づくのが鈍い人は符号解読能力が低いということですから、親しい相手がウソをつけていてもわからないのです。

アメリカの研究でも、女性と比べて男性は符号化する能力も低いし、符号を解読する能力も低いということがわかっています。ですから「もてる男性」といのは、符号解読能力に優れているのかもしれませんが(笑い)。

アメリカのある学者は、符号化と符号解読能力の男女差について、「社会的に女性のほうが立場が弱いからだ」と言っています。その学者によると、社会の中で生きる女性は、男性上司や同僚に対して彼らがどうしてほしいのかに早く気づいて要望を見抜き、それ的確にこたえていかざるを得なかったからだそうです。

早く見抜くというのはGで、的確にはほほほほ返すといったことはHにあたります。それを長い年月をかけて培ってきた。だから女性はそうした能力が磨かれたというところのようです。もつとも、いまは必ずしもそうとは言えない。男女の立場が逆転してきているようですからね(笑い)。

(渋谷昌三「ウソが人間関係を円滑にするとき」構成・八木沢由香 より)

注 原文は聞き書きに基づいて構成されたものである。そのため文中に（笑い）の表現が入っている。

問一 二重傍線部 a ～ e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部①「サバをよんで」、⑤「他愛のない」について、本文中の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①サバをよんで

ア 瞬時に判断して
イ 数をごまかして
ウ 差異をあいまいにして
エ わざと間違えて
オ 相手の期待に沿って

⑤他愛のない

ア 思いやりのない
イ 隙のない
ウ 取るにたりない
エ 根拠のない
オ 虚ろでない

問三 空欄 A、B、C に入る表現として最も適当なものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 聞こえているのに聞こえていないふりをする
イ 用事を言いつけられると、いつも「忙しいから」と断ってしまう
ウ 親や先生が、子どもの長所を伸ばすために「きみはきっと将来立派な人になるよ」と根拠なく約束してしまう
エ 子どもが下手な絵を描いたときに、「上手だね」と言ってほめる
オ 「来週の日曜日は動物園に行こう」と子どもに約束したのだけれど急に仕事が入ってしまい、約束を破ることになってしまう

問八 空欄G、Hに入る語として最も適当なものを、それぞれ本文中より五文字以内で抜き出し、書きなさい。

問九 本文の内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ウソという捉えどころのない心理を、筆者は多くの具体例やデータを用いて社会的な見地から考察し、ウソが人間の心理的発達や人間関係にとって不可欠な要素であることを証明している。
- イ 日本ではタブー視されているウソについてより客観的に研究するため、アメリカの研究を根拠とし、ジェンダー的な発想には反論を加えながらウソを多角的に考察している。
- ウ 「ウソは愛情の証である」や、「ウソをつくことも場合によっては必要となる」など、社会化された人間関係のなかでのウソの意義について心理学の立場から説明している。
- エ お金持ちは価値があるといった主観的道徳観を戒め、相手の好き嫌いを考える相対的道徳観を育成するために、思春期の子どもたちにウソの接し方を説いている。
- オ ウソを見抜くためには相手をよく知ることが大切で、また相手の言動を注意深く読み取る能力が必要となるなど、社会的欲求を満たすために必要となるウソの役割を論じている。

(二) 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

初めてひとり旅をしたのは一四歳の時でした。

オーケストラのヴィオラ奏者をしている母は、ヨーロッパに音楽家の友人がたくさんいます。一か月かけてフランスとドイツとベルギーを巡るその旅は、もともとは母がその人たちに会いに行くはずのものでした。ところが、急に母が行けなくなったので、冬休みだった私が代わりに行くことになったのです。

英語もろくにしゃべれない一四歳の娘を、よくもまあ、ヨーロッパにひとりで行かせたものと驚かれますが、その気持ちは、私にもよくわかります。私には息子がいるのですが、彼が一四歳の時に同じことができるかと言われたら、とてもじゃないけれど無理だと思っただけです。

私の母は、いざという時、①世間の常識より自分の直感を信じているところがあつたので、この旅が私にとって特別なものになることに賭けたのだと思います。

当時、私がついていたのは私立のミッションスクールで、それまで北海道の大自然の中を駆け回っていた私にとって、中高一貫教育の厳格なお嬢様学校は、あまりアイゴコチのいい場所ではありませんでした。絵を描くのは大好きだったので、ヨーロッパの絵画に触れるまたとない機会に、私自身、期待を膨らませていたのです。

フランスに到着してからの数日間は、リヨン近郊の小さな町に暮らす、母の知り合いの家に泊めてもらったものの、その後、パリに移動してからはホテル。移動もすべてひとりでした。一週間滞在する予定だったホテルをオーバーブックキング^{注1}を理由に追い出され、路頭に迷った私は「どうするの、これ？」と途方に暮れました。

厳寒のパリ。容赦なく日は暮れていきます。言葉だつてろくに話せないし、お金だつてたいして持っていない。b凍^レてつく街をさまよった挙句、路上に倒れでもしたら、一体誰が助けてくれるのでしょうか。その日はたまたま空いているホテルがあつたから良かったようなものの、

A 多難な旅はまだ始まったばかりでした。

フランス滞在の後にはドイツのケルンに行かなくちゃいけない。旅慣れた母にしたら、リヨンからケルンに移動するくらい、たいしたことではないのですが、右も左もわからない私にしてみれば、とんでもない大移動です。

今思っても、よく無事に帰ってこられたなと思います。

一体、自分はこんなところで何をしているのだろうか。

何度もそう思いました。大きな荷物を抱え、

なり、悪い想像がいくらでも浮かんできます。

どこかにさらわれて売り飛ばされるか、それとも自分の足で歩くか、どつちかしかない。追い込まれば、子どもだけけれども必死で考えるわけです。

もう本当にだめなんじゃないか、このまま野たれ死にするんじゃないかと思った時、ふいに「頼れるのは自分しかない」という気持ちが始まりました。今の自分を助けられるのは、そこらへんを歩いている人でも、日本にいる母親でもない。ほかの誰でもない。私は、私を頼る――。

「頼むよ、自分」「頼むよ、もう、お前しかないんだ」

自分で自分に声がけしたあの時、私には「自分を支えるもうひとりの自分」という運命共同体ができたのです。過酷な状況に巻き込まれても、そういう「もうひとりの自分」がいれば、客観的に自分の状況を見つめることができます。そのことが、その先の人生を生きるうえでも、どれ

ほど力になったことか！

死に物狂いで、窮地を切り抜けようとすれば、一四歳でも立派に②自分の哲学を持てるのです。これは、私自身にとっても驚きでした。一四年しか生きていなくても「自分でなんとかするしかない」と思えば、ひとりの人間としていゝんな判断ができる。意外に頼りがいのある自分を発見して、それが自信になっていく。

あの時の私が、すっかりした子どもだったかと言えば、とてもそうは思えない。

苦境に置かれなければ、生まれてこない感情、自分に対する信頼感というのがあるんですね。それをいかにつかみとるか。

それにはやっぱり、自分で動いて痛い思いをしたり、傷ついたり、恥をかいたりすることが必要なんだと思います。そういう実体験を伴わないと、自分の中にある辞書のボキャブラリーは増えていかない。③付け焼刃で書き込もうとしても、無理なんです。

海外に行けば答えが見つかるとも思えない。そんなdタンラク的で誰にでも当てはまるような方程式は、人生にはない。

失敗を恐れて、動き出せない人は、自分の中で全部をやろうとしてるんじゃないでしょうか。一か所にとどまっていると、悩みばかりがどんどん成長していつてしまいます。もうだめだと追いつまれた時こそ、世界に向かってもつと自分を開いていった方がいい。

本当に自分が欲している栄養分はなんなのか。

それは人によっても違うし、家族や友人にすらわからなかったりする。どこに行けばそれがあ
るのかは、自分で見つけ出すしかないので。もし今いる環境の中に自分のプラスになるものがないのなら、それを探す手間を惜しまないこと。

④そのためには、やっぱり、歩き出すしかない。

⑤なければしの自分を頼みにして、最初の一步を踏み出すこと。

一四歳のひとり旅は、私に「まず自分の足で立つ」ということを教えてくれたのです。

C、旅をしている間はあまりにも必死で、自分なりに「よくやった！」と思っていたけれど、あとになって振り返ってみれば、やはり自分の力だけではどうしようもなかった。リヨン駅で呆然としていた私を乗り継ぎの駅まで連れていってくれた親切なタクシーの運転手さん、自分からは何も言い出せずにいた私に「あなた、このあとはどうするの？」と気遣ってくれた母の友人、その時はお礼を言う余裕さえなかったけれど、その都度、つないでくれた人たちがいてくれたおかげで、どうにか無事帰ってくる事ができたのだと思います。

自力ってなんでしようね。たとえささやかなことであれ、何かを成し遂げるたびにそう問いか
けずにはいられないのは、自分の力だけではない、偶然の力が人を思いがけない場所へと導いて
くれると感ずるからです。身ひとつ投げ出してみると、向こうから思いがけない出会いがやって
くることもあるのです。

それは、私にとってまさに運命的な出会いでした。

初めてのひとり旅も終盤、ブリュッセルの駅でパリ行きの列車を待っていた私は、自分がへん
な人につけ回されていることに気づきました。キャメルのコートを着たその老人は、私がどこへ
移動しようと必ず近くにおいて、物陰からこつちを見えています。

なんだろう、あの人……。怖くなった私が逃げるようにして列車に乗り込むと、なんと、私のコンパートメント^{注2}まで追いかけてきました。

「ちよつと待った、お嬢さん」

「ひー！」

それがイタリア人の陶芸家マルコじいさんとの出会いでした。

彼は、私を家出少女と間違えて心配のあまり声をかけてきたのです。

「どう見たって子どもなのに、こんなところでひとりで何してるんだ。何歳だ？」

「じ、一四歳です」

「一〇歳も一四歳も同じだ。イタリアでは、eカタコトの言葉しかしゃべれない子どもをひとり旅に出すなんて考えられない。お前の親はどうかしている！」

ものすごいクセのある英語で **D** と説教を始めたマルコじいさんに、私はつたない英語で、いや、母は悪くない、と伝えようと思いました。自分は子どもの頃から絵を描くことが好きで、ヨーロッパの素晴らしい絵画を見たかったのだ、と。

ところが、それを聞いて、**⑥マルコじいさんは怒り出したのです。**

「だったら、どうしてヨーロッパまで来て、イタリアに行かないんだ!? おかしいじゃないか。ローマを、フィレンツェを、ヴェネツィアを見ないで何がヨーロッパだ。とにかく帰ったら、お前のお母さんにここに手紙を寄こすように言え！ 絵の勉強がしたいのなら、いつか私の家に来なさい」

そうして列車がパリに着くまでの間、いかにイタリアの美術が素晴らしいか、マルコじいさんは熱く語り続けました。 **E** それが自分の将来を左右する出会いになるとは、この時はまだ思ってもいませんでした。

(ヤマザキマリ『国境のない生き方 私をつくった本と旅』より)

注1 航空機の座席やホテルの部屋などについて、キャンセルを見込んで定員以上の予約を受け付けること。過剰予約。

注2 列車で、一つの車両が複数の個室に分かれている、その個室。ヨーロッパでは列車の座席のタイプとしてよく見られる。

問一 二重傍線部 a ~ e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部③「付け焼刃」、⑤「なけなしの」について、本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

③ 付け焼刃

- ア 全く役に立たない無駄な知識
- イ まだ十分に身につけてない知識
- ウ 間に合わせに覚えた知識や態度
- エ 知らないのに知ったふりをする態度
- オ さしせまって一晩でする勉強や仕事

⑤ なけなしの

- ア ありったけの
- イ いくらかの
- ウ つまらない
- エ ほったらかした
- オ わずかな

問三 空欄Aに適する語を漢字二字で書きなさい。

問四 空欄B、Dに入る最も適当なことを次の中から選んで記号で答えなさい。(2×2)

- ア こんこん
- イ じめじめ
- ウ すたすた
- エ とぼとぼ
- オ ぶつぶつ
- カ ふらふら
- キ ぺらぺら
- ク よろよろ

問五 空欄C、Eに入る最も適当なことを次の中から選んで記号で答えなさい。(2×2)

- ア あるいは
- イ そのうえ
- ウ そもそも
- エ たぶん
- オ とうてい
- カ とはいえ
- キ まさか
- ク まるで

(三) 次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

①彼は医学書の編纂に（ ）を注いだ。

ア 心胆 イ 心血 ウ 心酔 エ 心痛

②幸福感が（ ）と胸に迫る。

ア ざわざわ イ そろそろ ウ ひたひた エ うるうる

③彼は「電車が遅れたから」と言ったが、それだけの弁明では（ ）としない。

ア 釈然 イ 巖然 ウ 悠然 エ 泰然

④彼との再会に（ ）の望みを抱いて、彼女は飛行機に乗った。

ア 一介 イ 一縷 ウ 一抹 エ 一瞥

⑤お客様が（ ）ワンピース、どちらで買われたのですか。

ア お召しになられている イ 着こなされている ウ お召しになっている
エ お召しされている

⑥甲子園での活躍は、彼の投手としての（ ）の高さを証明した。

ア エssenシャル イ アーティフィシャル ウ オフィシャル
エ ポテンシャル

⑦駅伝で十人も（ ）抜きして、区間賞を取った。

ア ごぼう イ だいこん ウ あく エ はえ

⑧（ ）も行かぬ子に、そんな難しいことを言ってもわからないだろう。

ア 年輪 イ 年齢 ウ 年端 エ 年数

⑨祖父の散歩に、彼は毎日（ ）こととなった。

ア 付き添いさせれる イ 付き添わさせられる ウ 付き添われる
エ 付き添わせられる

⑩お客様から割れんばかりの拍手をもらい、役者冥利に（ ）。

ア 限ります イ 尽きます ウ 酔います エ 過ぎます